

内水ハザードマップの作成・公表について

1. 取組の背景

- 札幌市では、全市的に 10年に一度程度の大雨 35mm/h を排除することを目標に、雨水拡充管などの整備を進めるとともに、整備水準を超える大雨 に対しては、周辺に比べて土地が低い窪地などにおいて、能力に余裕のある河川へ雨水を流す バイパス管を整備 するなど、地域の実情に応じた個別の対応を進めている。

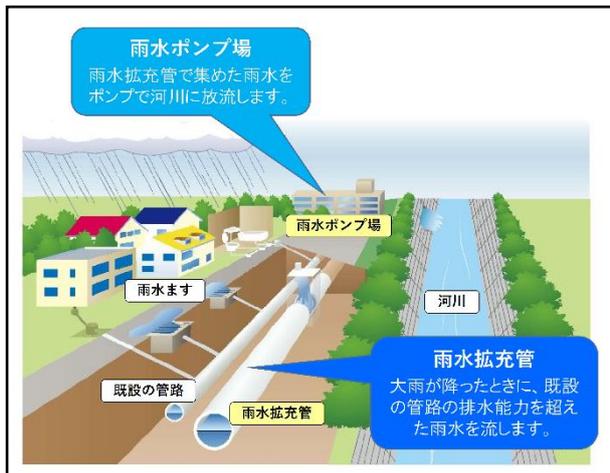


図 雨水拡充管のイメージ

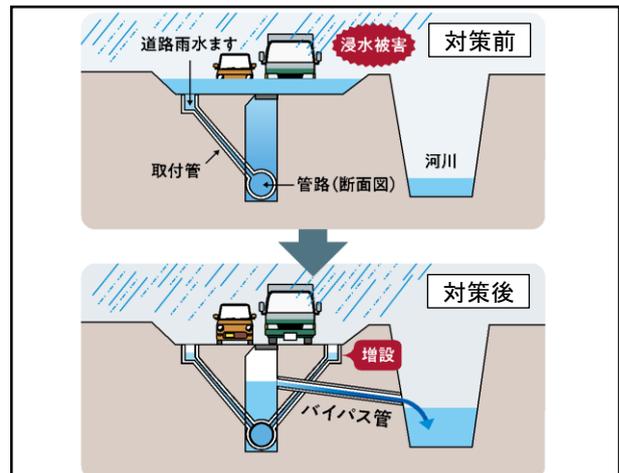


図 バイパス管のイメージ

- しかし、近年、全国的に多発する記録的な大雨 の状況を踏まえると、これまで進めてきた下水道の整備によるハード対策のみでは十分に対応できない状況も想定されるため、大雨時に想定される浸水規模や市民が取るべき行動などを掲載し、市民への注意喚起を行うソフト対策として、内水ハザードマップの作成 を進めている。

2. 取組状況

【令和2年度】

- 市全体について、想定し得る最大規模の降雨 125mm/h を対象として 浸水シミュレーションを実施 した。

【令和3年度】

- 浸水シミュレーションの結果に基づいて浸水想定区域図の作成を行い、内水氾濫への備えといった安全確保に関する情報を盛り込み、ハザードマップとして取りまとめ、令和4年3月に公表することを予定 している。

ハザードマップの概略

- 市民が内水氾濫と洪水の情報を1つのハザードマップで確認できるよう、洪水ハザードマップと統合し、「(仮称)札幌市浸水ハザードマップ」 として作成。(別紙「資料1-2」)
- 各家庭での使いやすさなどを考慮し、A4版冊子 で区ごとに計10種を作成。
- 地域の防災訓練(図上訓練等)を支援するため、連合町内会ごとの浸水想定区域図 も作成。(別紙「資料1-3」)

3. 周知方法

- 電子版については、市ホームページへの掲載を予定。(R4年3月)
- ハザードマップを印刷製本したものについては、全戸配布を予定。(R4年度)